京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅錢▲三ケ月前金九十錢▲六ケ月前金一圓八十錢▲郵稅一ケ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久繁一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

寄書

●今後の京城（下）

高橋章之助

兎にも角にも京城をして將來倍々進步發達せしめ國利民福を企圖するは□□者と吾人住民との一大責務なるを思はざる可らず之を遂行せんと欲せば官民一致以て事に當らざる可らざるは喋々を要せざるなり此に由て之を觀れば官民意志の疏通を以て第一要義と爲す政府も茲に見る所あり嚢に朝鮮總督府地方官々制を制定公布せらるゝや其第二十三條に規定して曰く各道及各府郡に參事を置くと這は恐れ乍らも畏き京城民意疏通の機關に外ならざるべし而して參事は道府郡管轄内に居住し名望ある者に就き命ぜらるゝものなるを以て予は京城に於ても官民意志疏通の機關として本先民團議員中より道及び府の參事を任命せられん事を望むもの也今後の京城は如上所陳の如き我領土中有數の要區にして殊に大陸に對する國鎖の重鎭我帝國對外勢力の消長一に京城民團の舉措如何に大關係を有するを以て議員に參與する民團議員の如きも英髦秀逸の士ならざる可らず今次の議員選擧は恰も併合後に於ける第一次の選擧にして同時に京城民團は朝鮮各地に於ける所謂模範民團なるが故選擧有權者は應に深く意を用ひ議員の態度を以て選擧を誤らざるを期すべく苟も從來の居留民團にけるが如く動詐誘惑に顧らず公平の頭腦を以て能く至重なる任務に堪ふべき人物の選擧に努めざる可らざると同時に被選者も亦た能く選擧者の意志を諒し事に當りて精密周到謹愼持重民利を圖り公益を增進するに努力せざる可らず今や選擧日迫る今後の京城に就き所見を陳べて讀者の一粲に供し併せて選擧有權者の注意を喚起せんとす云爾

●招聘醫の辭職

哈爾賓傳家甸に於けるペストは益々猖獗を極め清國官憲の依頼に依り防疫事務に從事し居たる佛國醫一名は該病に斃れたり是より先き清國官憲は川上哈爾賓總領事に日本醫師の招聘方を依賴したれば直ちに奉天より志願軍醫及び衛生署院より豊田醫師を推薦したるに清國官憲に於ては殆んど兩氏の意見を用ひず防疫手段は極めて緩慢にして益々猖獗を極めんとするを以て再三嚴重なる防疫法の必要を說くも更らに其容るゝ處とならず志願軍醫先づ去り豊田醫師のみ居殘り極力防疫に從事するも當局頑迷にして却て氏を侮蔑するの態度あるを以て氏は憤然として愈々其職を辭し歸南する事に決したり

外事一束

▲布哇 に於て比律賓人と日本人との間に紛擾あり若し比律賓人を解雇せざれば日本人はストライキを起さんとすと比律賓人が盜賊を爲す形勢ありと是れ平素比律賓人が盜賊を爲すが爲めなりと圖太き無賴漢なり

▲獨太子東洋御漫遊の歸途米國へ御立寄の事に御內定の由なるが之に對し紐育の新聞紙は米國にて殿下を見世物扱ひにするの外何等の利益なければとて米國御立寄中止を主張し居れりと見世物扱と來ては御立寄る譯にも參るまじ米國と獨逸各自其の特色を發揮する所事ろ好い取組みと申すべく

▲[illegible] ブラジル國にて監獄犯を企てたる水兵に對し取調中なりしが此程右暴擧に加盟したる水兵三百名を軍艦に乘せ海上にて銃殺し悉く海中に投じたりと海上の銃殺とは一寸思ひ付きなり

▲葡國 外務大臣は其の演說に於て葡牙の共和政體は今回の罷業の結果却て雇傭者と官憲とは互に相信用するの心を增加したり又葡國が外國の干涉を受けたりとの風說は無根なり猶英米兩國の會社は葡國として何等の犧牲を拂ふことなくして海軍改造計畫を實行せしめ得る或る提議を爲したりと云々と新政府の基礎今や動かす可からず而も遽に安座したる王者として聞かさるは何ぞ新葡國の運命漸く定まる矣

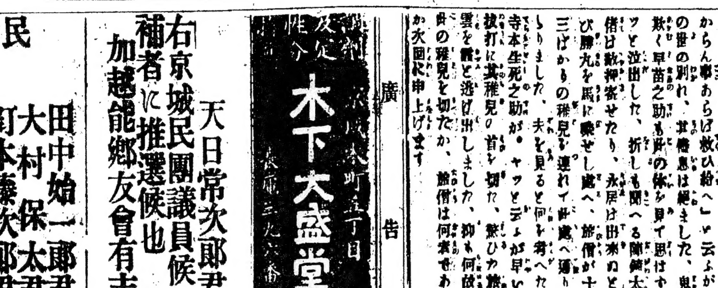
▲新政府はマリヤピア皇祖后に對して五千三百四十磅の年金を支拂ふことに決定したり是れ昨年十一月皇祖后は或る公約を楯とし葡國は年金を支拂ふの義務ありとして之を要求したるに因ると嗚呼皇祖后今昔の感果して如何

▲巴奈馬防備問題に就き大統領タフト氏は紐育に於て試みたる演說中に述べて曰く英米協約は米國の有する巴奈馬運河防備權承認の目的にて千九百年に修正せられ之に由りて米國は同運河の中立を保障したり然れども米國は中立を維持せんが爲め此に防備を施すか若くは米國の兵力を以て之を防禦するにあらずんば斯る保障は寸毫の効もなかるべし各國が同運河の中立を維持すべしとの約束は無効にして且つ危險なり巴奈馬防備に要する費用は僅かに千二百萬弗にして二分の利子を見るも斯る大計畫の費用に對し低率の保險料と言ふべしと云々と此の演說の一般に保守的なるよりして反對說は屏息せらるべしなど評せらる巴奈馬の防備米國の到底看過し得べからざる處たるや疑を容れず早晩積極說の實現を見るや必せり矣

山中鹿之助

六十七回　西尾麟慶演

義久の爲め勝丸は本年十一歲、才智衆に優れ幼年とは申しながら末頼母しき方、大勢御側に召仕はるゝ家來の中に皐月早苗之助と申す者が御座ひます、頗る忠義な者で勝丸に能く仕へて居りましたが、此の日一族の尼子九郎左衛門の叛逆によつて、山中鹿之助橫道兵庫之助早川鮎之助の三人は毒殺され、剩へ義久は擒虜となつて毛利元就の領土藝州吉田に押籠られしと聞き、スワコソ主君の一大事と播州上月の城より注進として參りました寺本生死之助の乘りすてた逸物に勝丸を乘せまゐらせ長坂坡にて趙雲が幼主を救ひし樣もかくやと勇ましく、直に富田の城を乘出した、尼子九郎左衛門之を承はり　九「夫れ勝丸を逃すナ、早苗之助は弱年なれど普通の者ならず、油斷して不覺を取るナ、夫れ取押へろと、聲をからして下知を爲した、九郎左衛門部下の人々大身の槍を提げ、馬に打跨て十五六人乘立〱參りました　○「如何、早苗之助、勝丸を當方に渡せ、否やと云へば汝まで討てすてるゾ、グル〱と周圍を取卷だ、此時早苗之助莞爾笑ひ　早「汝等鼠の分際として、虎に戲れんと爲す命知らず、ソコのけ、と云ひつゝ小脇に抱込んだる槍を取直し、忽ち二三人突て落し城門を開て馳せ出しました。之を見たる九郎左衛門の討手の面々、此の上は飛道具を以て討てすてろ、と弓鐵砲を提げ跡を慕つて追駈けたり、早苗之助は虎口を脱れて、城を距る事一里半、松原まで參つてホツと一息吐く處へ、オーイと後ろより呼ぶ者が御座ひます何人なるかと見ると、夫へ參つたは寺本生死之助が八重姬君に繩をかけて一散に驅け來りました。早苗之助之を見て大ひに怒り　早「ヤオレ人面獸心の寺本、汝は叛逆人九郎左衛門に降り、主君の御内室を九郎左衛門の妻に爲さん抔と申せし由、不忠者の見せしめ我槍先にかゝつて相果てよと、突懸らんと爲すを、寺本押止めて　寺「早まり給ふナ皐月氏、某深き謀計あつて一時九郎左衛門に從ひ、義久公の御内室八重姬君を預りたり、其許の誠忠を見拔きたるによつて八重姬君をれ渡し申す、何卒勝丸樣と共に京都に罷越し、八重姬樣の御父上中納言敦之卿へ御預け申すべし、我は大切なる八重姬樣を取逃がし落度にて九郎左衛門の刄にかゝつて相果つるか、左なくば拙者腹切て相果ん、イザ八重姬樣を受取られよと、夫へ繩を解て差出しました、勝丸君は母上かと取縋る、八重姬は涙ながら勝丸の後毛を掻き上げ　八「今日計らずも父上は敵の爲に擒虜となり給ふ、其方は何卒命を永らへ藝州吉田に居給ふ父上を取返し、再び尼子の家名を興し、當の敵の九郎左衛門を討取り給へ、例へ彼三面六臂の勇者なりとも飛道具をもちて討ちたらば容易からん昔へ蜀の甘夫人は家の爲に自害し名を遺ひ給ふとか、死すべき時に死なざれば死に勝る恥ありとは古人の教へ、只今申せし事ゆめ〱忘れ給ふな、と云より早くサラリ引拔きし懐劍ズバと咽喉へ突立て、前へ打倒れました、勝丸君之を見て大ひに驚き　勝「コリャ早まりし母上の御最期、吾こそ潔く腹切つ父上の云ひ甲斐なく生捕られし恥を雪がんと思ひしに情けなや、悲しやと母の身体に取縋り、暫時涙にくれました、其時八重姬は苦しき息を吐き　八「勝丸末頼母しき今の一言、妾は千部万部の經よりも嬉しく思ふて成佛致します又夫に居る生死之助」妾が首を持ち、九郎左衛門の心に從はざる故是非なく討てすてしと敵を僞り、勝丸の身に危ふからん事あらば救ひ給へ」と云ふが此の世の別れ、其儘息は絶ました、鬼を欺く早苗之助も此の体を見て思はずワツと泣出した、折しも聞へる陣鐘太鼓、[illegible]押寄せたり、永居は出來ぬと再び勝丸を馬に乘せし處へ、旅僧が十二三ばかりの稚兒を連れて此處へ通りかゝりました、夫を見ると何を考へたか寺本生死之助が、ヤツと云ふが早いか拔打に其稚兒の首を切た、驚ひた旅僧は雲を霞と逃げ出しました、抑も何故に此の稚兒を切たか、旅僧は何者であるか次回に申上げます



東宮殿下御避寒

東京電報（廿七日）東宮殿下の御病氣御快癒に付き[illegible]御同伴にて葉山御用邸に御避寒あらせらるゝ事に御治定

東宮妃御快癒

皇太子妃殿下には[illegible]輕微なる御風氣に[illegible]中なりしが已に御[illegible]

寺内總督の演說

二十六日の豫算委員總會に於て寺内總督は朝鮮併合に至る經過及併合當時の狀態に就き說明せり

大石氏の質問

寺内總督の演說に對し大石正巳氏外數氏の質問あり夜に及んで散會せり

豫算委員總會

本會議後豫算委員總會を開く野田卯太郎氏は廣軌鐵道問題に關し質問する所あり次で元田肇、島田三郎の兩代議士の質問あり後藤遞相、山内鐵道院總裁、平井副總裁は交々立つて廣軌案十三年計劃運賃低減に就き答辯する所ありたり

諸法案附託

衆議院本會議は廿六日午後一時開會政府提出の七法案を夫々委員に附託せり

▲前田正名氏歸朝　歐洲實業視察の爲め渡歐中なりし前田正名氏は昨日歸京したり

▲特別裁判事件と訓戒　文部省にては今回大審院特別裁判被告事件を以て聖代の一大恨事とし各地方長官に宛て此の際各學校長は各學生々徒をして大義名分の存する所を明にし決して不心得なる擧なき樣訓戒を加ふべき旨通牒を發せり

▲中清鐵道開通　上海總領事發電に依れば津浦鐵道線路中浦江より安徽省鳳陽府下臨淮に至る九十五哩は本日より開通したりと

▲優勝旗授與艦　曩に施行せられたる艦艇機關術檢定に於て優等の成績を得優勝旗を授與せらるべきものは軍艦鈴谷（旅順鎭守府所屬）水雷艇第七十四號（佐世保鎭守府所屬）に決定したり

雜報

●新教育制度

朝鮮に於ける新教育制度は來る四月より施行せらるべく右に就ては目下總督府學務課にて種々研究調査中なるが寺内總督は此の問題に就き予一個の考を持し居り容易に其意見を動かざるも左の諸點は結局動かざる處なるべしと

△義務教育制度は當分施行せられざるべし、此制令を發するとあるも頗る狹小の範圍に限りたるものにて、本土に於けるものとは全然性質を異にすべし　△學科に於ては實業的科目を多くし空理空論に走らしむる餘弊ある學科は課せざる方針を採るべし　△日本語の時間を多くし朝鮮語の時間を少くし漢語の時間を全廢すべし　△敎育勅語は本土に於けるが如く取扱はず寧ろ戊申詔書によりて修身を說き之に多少儒敎主義を加味すべし　△當分は中等學校は設置せざるべし

●孝明天皇祭勅使參向

來る三十日は孝明天皇祭御例祭當日に付京都東山御陵前に於て御祭典執行に付勅使として參向仰付けられたる掌典男爵久我通保氏は山下宮内屬米田掌典補を從へ二十七日出發西下の途に就けり

●獨帝誕辰祝賀

二十七日は獨逸皇帝陛下の御誕辰日に相當せしを以て京城駐箚同國總領事館に於て午前十一時より午後一時迄で一般の祝賀を受けたるが總督府よりは山縣政務總監、小松外事局長、國分人事局長右祝賀の爲め同總領事館を訪問したり

●長官會議

二十七日午前十一時より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、石塚、倉富、木内の各部長官鈴木、小原、小松の各局長山形中佐、岡本、小城の兩技師列席政務の打合せを爲し午後散會したり

●有吉長官の辭任

有吉總務部長官は客冬より歸東中なるが右に付き種々の噂なきにあらざれど何れも揣摩臆測に過ぎず實は同氏は年來の痼疾たる脊髓炎は京城の如き冱寒地方に在るを許さゞるより一時歸東せる次第なるが醫師其他の勸告等もあり當分内地に於て加療の必要あるを以て今回辭職する事に決心し既に寺内總督の手許まで其旨を提出したれば不日後任確定次第其發表を見るに至るべし蓋し氏は人材拔擢の知遇に感じ宿痾の身にあるも忘れて來任し政務に鞅掌し總督政治に多大の貢獻を爲す所あらんとせしに今や殘念乍ら病の故を以て辭任し閑地に就かざるべからざるに到りたるは氏の前途の爲め寔に惜むの外なし

●牛疫血淸製造所

農商務省は四十四年度豫算に牛疫血淸製造所の經費を計上したるが即ち從來東京西ヶ原試驗場に於て右血淸を製造し來りたるも同場は規模狹小なるのみならず交通頻繁の地に存在する爲め製造に伴ふ危險を豫防するに困難なるの事情あり然るに朝鮮は諸般の材料豐富にして低廉なる上畜牛數約八十万頭に上り牛疫の發生地を以て目せらるゝ所なるを以て政府は同總督府及臺灣總督府と共同して朝鮮に製造所を新設し朝鮮及臺灣の畜牛に血淸を施したる餘分を以て內地の需要に應じ又た內地に昨年の如き牛疫の流行ありたる時は朝鮮及臺灣を後顧しとして內地を先にする等彼此便宜流用して漸次牛疫の根絶を期せんとするものなりと而して同豫算

議員候補者漫評

△△生

▲三好和三郎君　君前回の選擧場裡に立ち遂に落選の不幸を見ぬ然れども之が爲に鼎の輕重を問はれざりしは君の潜勢力如何に夬れ偉大なりしかを知るべきなり而して今回再び候補に立ち西部に箭を唱ふ蓋し多年の扶殖に係る其勢力は更に一層の力を强め來れる如くなれば其當選決して疑ふべからず

▲山口太兵衛君　乃公起たずんば民團政の將來を如何にせんとは君の常に語る處なり遮莫君の口より之を聞くも自畫自賛の誹を免れざらんも事實其實に君の力多きに因る又君の熱誠は然るを如何せん現に居留地の今日ある金石も赤透るの概ありて幾多の貢獻は歷々之を證して餘りあり此點に於て君は元老と言はんよりは寧ろ元勳と稱すべきか只惜むらくは近時輕擧の風あり慎むべきかな

▲松浦源治君　壯屋主人松浦源治君は廣島縣の人在留二十餘年聲望漸く高く今回西部の推薦を享け其候補に立つ君資性温厚にして愛嬌溢るゝが如く任くとして可ならざるなきは何人も知悉する處なり然れば多數の推擧に會ふ蓋し偶然ならずと謂つべし

▲關繁太郎君　堅忍不拔は君の本領なり此本領は則ち今日の成功を收めたる所以にして正さに立志傳中の人たるべし而して民會に於ける君は常に泰山不動の重きを示めし一擧手一投足之を苟くもせず且一たび信ずれば何物の誘惑も及ばざるが如き蓋し好箇の人者たるを見る

▲兼古禮三君　君年齒漸く而立を超ゆる事四、然れども老成圓熟の態度は民團議員として既に充分の貫目あるを見る君は新潟縣の人父君に伴はれて渡來し幾多の辛酸を嘗め以て今日に到れり而して思慮の綿密なるは實に先天的の稟あり今や龍山の衆望を負ひ競爭の陣頭に立つ決して偶然ならず

●長崎高商卒業生

來る三月長崎高等商業學校卒業生百十八名ある處定に付き採用希望の向は來る三月十五日迄に直接同校へ申込むべしと

●技術官會議終了

去る二十四日より遞信局に於て開會中なる通信技術官會議は豫定の通り議事進行し二十七日も午前十一時より開會岡本秋山碓井の遞信局技師以下各局課長技術官列席通信局提出の諸問案を協議したり二十八日は各局提出の協議事項に付各自意見の交換を爲し同日を以て同會議の全部を終了する筈なりと

●奉釜間直通期

朝鮮鐵道と安奉線とを連絡すべき鴨綠江の鐵橋架設工事は本年十一月の結氷前に完成すべき豫定にて安奉線の改築工事も成るべく之と同時に竣成せしめんが非常に工程を急ぎつゝありて未完成の部分は本溪湖鷄冠山間九十五哩なるが總督府にても四十四年度鐵道豫算に京義線改良工事費を增加して鴨綠江鐵橋工事の竣成に伴はしめんとの計畫なれば是等の諸工事は今後一年を經ずして完成し奉天釜山間に直通列車を運轉するに至るべく斯かる曉には大連航路及び浦鹽航路に多大の影響を與ふるは無論なるべしと云ふ

●韓銀支店移轉

大阪今橋五丁目の帝商銀行支店は今回北久寶寺町に移轉し其跡を韓國銀行支店が借り受け來月早々引き移るべしと

●勸業會社行惱

舊韓國宮內府顧問加藤增雄氏等の發起にかゝる大日本勸業會社は最初總株數二十萬株の內十八万株は發起人側に於て引き受け殘二萬株だけを公募に附するのみなりと傲語しつゝありしも實際發起人の手に引き受けらるべきは四萬株を出でざるべき狀態にありと

選擧界彙報

▲南高同志會候補　既報南高同志會は愈々本町一丁目本田旅館に事務所を設け左の候補を推薦せり　池田長次郎、林田金次郎、大村保太、中村再造、山口太兵衛、增田三穗、秋吉富太郎、城六太、榊原長緒、森勝次、

▲山口縣人會決議　在京城山口縣人は二十六日午後六時より南山町巴州亭に集合し同縣人會我勉氏の推薦を誓ひ更に昨二十七日より事務所を南大門通に設置したり

▲深水氏問題破裂　深水淸氏が同志を買ひ又京城日報社營業主幹を驅ぎして各方面に活動し就中東部の不平連を慫慂し殊更らしく京城日報社隣に撰擧事務所を設置したるは大に世上の注意を惹き東部は勿論中部西部に亘り非常の感情を害したり而して貰られたる西部の特に甚しき激昂は遂に同氏を西部候補者中より除斥するに決したり

▲京日のボイコット　別項深水淸氏の行動に就ては東部に於ても非常に激昂し京城日報に對し非購買同盟を決議したり其理由とするところは元來個人的運動は加盟團体の利益を損傷せざる程度に於て之を認め居るも同氏の行動は大に之と異なり單に東部の攪亂に力めたるのみならず配下の某々社員を使嗾し新聞風を吹かして盛んに運動せしめ或は公開の席上に於て京城日報社營業主幹の位置を鼓吹し官民の連鎖たらんと叫べるは明かに氏の候補と京日社との間に何等か關係あるが如く示したるものなれば東部の非購買同盟を起すに到れるも强ち無理ならざるが如し

●京城の龍山侵入

龍山　龍山の鐵道側は京城側の蹶起により大に力付き同志の糾合愈々鞏固なる由なるが之が爲め數日來京城側より盛んに同地に侵入して情實因緣を逆ぎりつゝあるも孰れも刎ね付けられ殆んど失望の體なり

●時計商組合候補

在京城時計商組合は木島平兵衛氏を推薦すべく決議し之を發表したり

▲民長の吏員戒飭　古城民長は今回の撰擧に就き殊に嚴正の態度を示めし居れるが多數員中に種々の關係より不知不識其渦中に投ずるものあらんやも保すべからず依て二十六日內訓を發して苟くも斯かる所業なき樣嚴重戒飭せり

▲大阪人會候補　大阪人會は過日松葉樓に新年宴會を開き議員候補を協議せしが其結果左の如く決し二十七日之を發表せり　木島平兵衛、石井新、三好和三郎、小林藤右衛門、松浦源治、

▲採點の訓練施行　京城民團にては二十六日午後撰擧關係吏員を集め撰擧當日に當り萬遺算なきを期せん爲め採點訓練を施行したり其順序は三組に別ち朗讀二人宛採點十八人宛を配し豫め候補者八名を各組に分配し置き朗讀に從つて採點せるが其成績頗る良好なりしと

▲選擧立會人決定　豫報の如く京城民團より依囑交渉中なる撰擧立會人は左の如く決定せり　鮎貝房之助、大島專藏、遠辰馬、佐々正之、執行猪太郎、上野政次郎

●仁川議員の勤怠表

京城逐鹿界の競走激烈なるに反して頗る平靜なりし仁川撰擧界も時日の切迫と共に大に色めき來たりたるより今撰擧人の參考として仁川民會第二期に於ける議員の勤惰を記載せんに同期は廿四回開會成立したる十五回の流會あり斯く多くの流會を來たしたるは必竟議員が私用又は事故に托し出席を怠りし結果に外ならず此際撰擧人たる者は充分注意して開會の際は私用を抛ち出席して議案の澁滯を來さゞる人材を推薦して議員に擧ることゝ仁川の爲め肝要なるべし今第二期に於て出席議員の表を擧れば龜田氏の十九回を初めとし八田氏の十七回、加藤、平山、市川三氏の十六回、吳田氏十三回、竹田傳、加來藤氏十二回、豐田氏九回、沖澤氏六回、新原氏五回、桑野氏四回なりと云ふ

●選擧事務補助

囑托　二十六日古城民長は選擧規則により民團議員選擧事務補助員則ち內地に於ける立會人六名を左の如く囑托せしが何れも直に承諾せり因に記す以上六名の補助員は選擧投票及び開票に到るまで一切の選擧事務に付き民長を補助するの規定にして尚ほ當日は監督官として大庭府尹兼備も臨席すべしと

大島專藏、佐々木正之、遠辰馬、鮎貝房之進（以上京城側）上野政次郎、執行猪太郎（以上龍山側）

●選擧參觀許可

來三十一日の民團議員選擧及び翌日の開票當日には希望により參觀を許可する事となりしが右は選擧事務所、關係者、新聞雜誌通信社記者等に限り併も會場の都合より其員數を制限し選擧事務所關係者は一ヶ處三名新聞雜誌通信社等は一社一名宛の豫定なれど尙は多數に上りたる時は又それ〲制限を加ふべき筈なれば希望者は速に民團理事者に申込めば入場券を下附すべしと

漢城共同倉庫會社 四十三年度下半期營業成績

同會社本期利益金三千三十八圓十三錢前期繰越金六千九百七十五圓二錢積立金千圓賞與金四百六十五圓建物費消却金五百圓後期繰越金四千五百三十九圓五十七錢にして配當は年一割五歩即ち一千八百九圓なりしと

支配人石井光雄氏談　下半期は餘り良好の成績を以て經過したとは謂はれません一体倉庫業は常に上半期に於て繁忙を示し下半期は閑散なるを普通の状態とします第十期即ち本期は昨年七月より十二月までで閑散の時期でありますが當期の初めに於ては相當の貨物もありましたが爾來輸出一方で新たに輸入せらるゝものは甚だ僅少でした從て貨物が出る計りであると貸出金も回收する方で新たに貸出することは殆んど絶なる譯に當期の大部分をば經過したといふ譯です日韓併合によりて人氣引立ち農作が豐穰であるといふ見込がたつて之れが爲めに金融界經濟界も漸く活氣を呈しましたが何分會社の重要なる貨物米穀が産地で近年稀なる高價を表はした爲めに思惑買をするものも少くなり米穀の入庫も多量に上らなかつたので之れが爲め下半期の閑散にかてゝ加へて例年の如くさ程の收益を見ませんでした而し幸に東亞煙草會社の煙草の保管を寄托せられ其の外砂糖や麥粉の入庫がありましたから此の經濟界の状況にも係はらず割合に良好の成績を以て了りました當期に於ては南大門の市場の跡に倉庫を立てまして貸出擔保等も丁寧に便利を計り居りますが未だ日も淺いこと故著しい成績を見ることは出來ません然し來は忙しくなることゝ期待して居ります以上は本店に就ての御話ですが支店の方で仁川では本店と同樣に輸出計りで入庫が少なかつたのでしたが十一月頃から漸次米穀等の輸出盛になりまして例年に劣らざる景況でした仁川支店に於ては輸出米は例年三四月頃で一段落を告ぐるのですが前期來米價振はざる爲めに商人も買出しを控へて貨物が比較的長く滯留した爲めに相當の收益がありました平壤支店にては穀物換多かつた爲めに本期間では二十四万圓にも上りました之れが爲め農家の購買力增加した結果綿布綿糸の雜貨等が多く輸入せられて盛況の裡に經過しました會社の方針としては倉庫を充分に改良して本社の傍にも煉瓦造りを新築して益々發展を期して居りますが目下は貨物充滿して居ります云々

●光安砲兵大尉出張　軍司令部附光安砲兵大尉は廿七日黃海道地方へ出張

●中村副官の東上　中村副官は騎兵事務打合の爲め二十七日出發東上せり

●渡邊法院長催宴　渡邊高等法院長は二月四日午後六時より倉富長官以下司法部各高等官をゾンタクホテルに招待し晩餐會を開く筈

●愛媛縣人會　在京龍仁間に於ける愛媛縣人によりて組織されたる同縣人會は二十六日午後五時より京城ホテルに開催されたるが會するもの約五十餘名幹事宇都宮高三郎氏の報告に次て民團議員の候補者たる皆川、榊原兩氏を團情を以て迎ふる等の談話あり頗る盛會なりしと云ふ

▲相場電報

（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（廿七日）

		（前場）	（後場）
▲神戶電鐵	寄	三九、〇〇	三九、二〇
	引	三九、一〇	三九、一〇
▲京阪電鐵	同	六四、五〇　六四、六〇	六四、五〇　六四、六〇
▲鐘淵紡績	同	出來不申　一〇六、六〇	一〇六、七〇　出來不申
▲日本郵船	同	九七、八〇　出來不申	出來不申
▲東京株新	同	一二三、七〇　一二三、九〇	一二四、〇〇　一二四、五〇
▲大阪株式	同	一三四、八〇　一三四、九〇	一三四、九〇　一三五、三〇
▲同直取引	同	一三三、三〇　一三三、七〇	一三三、五〇　一三三、八〇

▲大阪期米

●廿六日前場　一月止十四圓四十一錢▲二月止九十四錢▲三月止十五圓十三錢▲後場　一月寄十四圓四十一錢▲止四十一錢▲二月寄出來不申▲止出來不申▲三月寄十五圓十四錢▲止十五圓

●廿七日前場　一月寄十四圓四錢▲二月寄九十四錢▲三月寄十五圓十四錢

▲仁川米豆取引

●廿六日後場　二月出來不申▲三月寄十一圓二十二錢▲最高二十三錢▲最低十一圓十八錢▲止十一圓二錢▲廿七日前場　二月出來不申▲三月寄十一圓九十錢▲最高十一圓▲最低十圓七十九錢▲止十圓九十一錢

▲治外法權▼

二十四日發行の京城日報に寺內總督排斥の狀の如き記事が掲載された、寺內總督の排斥、ヤリタイ人達は物好きにヤルも良からうが、排斥の理由がアレ丈では振物だ▲今や總督は議會に立て朝鮮の豫算を通過させんとして居る、此時に當つて吾人半島移住民は何事によらず總督に對し好意を以て彼れの尻押に勉むべしだ、區々たる小事を以て彼れを傷けんとするは取も直さず豫算の通過に妨害を加ふると同じ事だ▲宇佐川の總裁がドウ氣紛れたか過日新聞記者をゾンタクホテルに呼んだ、ソウして大枚一圓五十錢の料理を社費を以て振舞ひ、其機會を利用して一時間半餘の演說を述べた▲記者は不參した爲め難を免れたが、同業者にして參會した人々の中にはアテラレテ以來病氣になつたものが出來た▲昨紙掲載した東拓の小作契約と題する記事は某通信社から賣つて來たものだ、一讀手前味噌が鼻に落らぬ點があるから段々調べて見ると夫は夫は、嘘も嘘、大嘘なこと發見された、本社で調べた東拓小作契約の實相近日に發表しよう▲當地發行の新聞記事と同樣內地への通信記事を取締るべきは當然の事だ、此れに薄く、彼れに厚きは決して公平に非ずだ▲過日京釜線の列車が顚覆した、本紙が其記事を掲げようとしたら、警務總監部から該記事掲載相成らぬとの嚴命があつた▲所がオカシイ事には該記事が御用紙京日に載せてある、否京日のみならず、釜山、平壤其他の地方新聞に載せてある、獨り載せぬのは我が新聞のみ、ナンダカ間の拔けた話だ▲民會議員の選擧に關する當局の態度は落附いたものだ、落附いて居て、而して取締の目的を達する、之れ戰はずして勝つのだ。

京城居留民團議員選擧人名簿 (九) (明治四十四年一月調)

◎櫻井町 且亦六郎 吉田作介 吉村勝平 林山松太郎 森田三八 田口重藏 瀧川友次郎 立川竹次郎 津村兵次郎 中村敬次郎 中川虎太郎 中生諦吾 永江義三郎 村越幸之助 九津見熊夫 山本良吉 山形義助 矢野善雄 松井好造 的野基 藤井利助 藤村利昌 福田儀三郎 小林長一 小勝倉藏 秋吉滯夫 相川政十 安藤又三郎 阿部友吉 麻生時太郎 佐藤喜六 坂本善保 木下涉太郎 定井鹿二郎 宮本三喜藏 溝上與太郎 御船鹿太郎 篠原春光 島野善三郎 姫野輔太郎 森川直舍 最所勝三郎 杉山宗藏 ◎新町 伊藤準吉 石田融 飯室吉右衛門 富田金雄 岡田豊三郎 渡邊綱虎 川副次衛 海津龜松 高武幸石衛門 竹本彌三次 鶴岡肸三郎 中本晋十郎 長木定吉 村田平次郎 野田源五郎 山下伍造 山口庄一 安川藤太郎 正司節三郎 深草榮藏 赤萩與三識 櫻井丈太郎 三浦幸一 清水彌三郎 森本貞四郎 菅原秀吉 ◎黄金町、竹園町 井上高 石田定吉 堀内菊次郎 千葉正胤 金子友次郎 梶山矢郎 吉谷榮吉 中島章

梶根善太 吉田仁作 吉武正八 木花芳太郎 田坂貞次 竹內茂 瀧澤留太 甚岡彌兵次郎 塚本貞一郎 中村龍尾 中西常吉 長野菊次郎 成瀬千輔 上見宅之助 山田政次郎 山口義三郎 安間勝幸 松本照一 松宮万吉 京増晉 藤本惠三郎 藤崎新吉 福田瀧十郎 小宮作次郎 近藤途市 秋本龍助 青木角次郎 阿部喜藏 天野盛之助 佐藤金次郎 佐々木重吉 鮫島宗康 木村晋五郎 木曾虎太郎 宮田要藏 永島重治 白木喜助 篠塚隆次郎 鴨田若一 久光茂太郎 毛呂德衛 岡本仁三郎 砂田庄平 伊藤松太郎 岩田萬太郎 林富吉 遠山正行 岡村儀次郎 渡部敬助 川野其藏 吉田喜太郎 田口茂八 武井品三郎 辻龍太郎 中道虎次郎 永峯喜吉 上田年太郎 久保宗一郎 山下慶造 山崎鹿之助 松本幸次郎 福島友治 小島竹松 濱井三雄 木元彥助 三輪爲三郎 稗和田彌次郎 鈴木松之助 玉井謙市 井上貞傳 糸川茂樹 本田龍之助 大竹一八 川本初一 吉村百助 田中與助 中野友次郎

垣內鐵太郎 高木金數 吉原常吉 高橋誠允 田口春二郎 武野万吉 瀧政吉 宗侍次郎 中村長吉 中村鶴藏 中西宇吉郎 長濱榮三 村井嘉三郎 馬淵德三郎 山田卯三郎 山根李治 柳田彌十 松田折右衛門 前田清吉 藤田國太郎 藤山磯造 福田政一 深澤半藏 小山光利 甲村久米太郎 相原長次郎 安藤靜 阿部卯一 畔津幸太郎 佐藤嘉十 坂本政市 定近守男 木村幸太郎 宮原常吉 溝口政癸 峰館吉 城田市太郎 下川和三郎 平野吉太郎 森實治 守田德一 鈴木絲藏 井上長七 池田德哉 本田喜一郎 勤木常吉 奥川安次郎 河村德次郎 加川八郎 高木儀三郎 田口兼助 鶴田幸雄 中島市三郎 中俣清造 南里勘太郎 上田仙平 桑原次搶郎 山下拆吉 安川伊吉 松島岩吉 福山伊兵衛 近藤鎰次郎 澤田元次郎 北野竹次郎 柴田晋五郎 足田傳一郎 杉山龜藏 井出三郎 原樋樹 友枝榮三郎 尾能五兵衛 川口寅吉 吉岡加之吉 武永豊三郎 長尾庄三郎

南條三吉 岡松彌太郎 山崎國藏 藤戶計太 後藤荒彥 秋山榮藏 阿部唯二郎 篠原禮七 鹽田彙實 椎葉繁 林田國太郎 岡與太郎 河野三通士 田坂藤吉 谷口龜太郎 梅田勇藏 久保田齋 松尾宇吉 齋藤綱吉 山岡善十 ◎花園町 井上鯉 池田英三之助 原田與之助 花岡良太郎 大村親 大陸大定 岡崎貫一 河井嘉五郎 吉田淵 田中辰次郎 瀧川愼太郎 向井田善五郎 宇都宮宗次 久下重治 楠淺吉 前田周右工門 小杉利兵衛 甲本郡治 赤羽米二 木嶋新之亟 水野小助 品川喜八 彥竹久次郎 鈴木伴三郎 ◎初音町 五十嵐勇次郎 泉眷造 川勇 大石善喜 河崎雲平 吉田五郎 吉村七雄 玉木杉 中島盛翊 內藤外次郎 村上親 臼井三吉 延原龜一 矢部桂次 丸岡助之烝 荒木鐵次郎 下田菊之助 ◎西大門外官舍 武內之劍 細谷新

村上儀平 宮佐兵衛 矢田熙 福井千尋 根梅吉 荒木老松 石田與吉 清水淺吉 志村作太郎 石井泉 小田駒三郎 岡村延一 河原田甫 竹內鐵之助 中村健太郎 梅津龍太郎 黑川代熊 松田清太郎 河谷武平 佐藤梅吉 井原勝、石井末吉、岩井定 今村萬次 原口源七郎 西谷助次 大森嘉 大津儀太郎 奧貫恭助 川口芳次 横田由太郎 田村榮之助 中原晋作 上田曠 野田忠藏 黑木政治 藤本久七 山下藤九郎 小杉彥治 榎本純夫 早利賢藏 岸川丸太郎 白井事任 下野政信 一ッ木平次郎 杉林喜助 八田岩吉 原口作兵衛、濱地美輔、長谷 羽生孝慈、畑山辰次郎、豊富卯六 太田壽之助 州津玉留 吉田嘉作 高山資清 根岸七五郎 中尾誠主 成田雄 村上武夫 臼井樂士 山口吉五郎 前田久作 藤原儀太郎 赤松盛一 鈴木融 磯部秀太郎 大屋欄平

梅田眞七 山本萬次郎 松井信司 古川長三 寺尾平吉 相澤松次 坂本宮治 下郎半次 志村波留 五十嵐作工門 小栗榮吉 渡邊嘉藏 田村久太郎 竹內牛藏 內藤利一 鵜澤祐 山田加多之烝 赤水熊太郎 花輪廊次郎 多讓三郎 梅吉喜 板倉甚彌 橋本嘉吉 大塚與市 大森留太郎 岡田義太郎 鬼塚熊彥 鎌倉力一 高橋己甫太 田邊仲太郎 棟重清太郎 上田竹松 野波久義 草野卯吉 山下治左工門 古川榮次郎 兒玉豊松 阿部仙太郎 穴吹清太郎 宮地彌左衛門 島村宇三郎 日吉守 百田儀三郎 原田豊太郎 尾田淵 勝又甲太郎 吉村忍 田中豊太郎 中村茂吉 中野龍作 灘波與太郎 村井安吉 野中清藏 山中宗次郎 增田房吉 小森百太郎 宮脇重清 原田駒之助

(第三種郵便物認可) 明治四十四年一月廿八日 京城新報 (土曜日) 第六百十二號 (五)

特別廣告

吾人は京龍の發展上最も公平の意見を持せる

田中常次郎君

を京城民團議員候補者に推薦す

京城龍山有志者一同

活動寫眞 投函子

二十七日 朝の南大門驛

麗らかに晴れた空に初東風が吹く、鷄鳴は暖かさうに鳴いて巷の人の足取りも輕い、停車場に入れば、新義州憲兵隊行の大梱包や藥品行李が手荷物扱所の棚上に積み上げて在る、神戸市、長山久滿、と記したが行李や廣瀬館藏、京城中部の木札ある行李や、三日月旅館、御顧様、と書した大包や、は、續々として擔ひ入れらるゝ、棚の奥には、二個の木箱がある、一は、東京市京橋區西紺屋町 男爵高木兼寛閣下 と、一は、東京市麻布區鳥居坂町 子爵實吉安純閣下 と書して差出人は京城鐵路安商會の字が讀めた。防疫軍第二團の憲兵十名は、勇氣凛々として、病魔軍の侵入を防壓すべく出陣せらるゝのである、僕は國家民人に代りて、謹で諸士の健康を祈るのである、東京銀座の巨商三枝與三郎氏のトランクも見へた、氏や京城に入り、如何なる成算を齎らして帝都に歸るや、今後の運動が見たい。菱田囑託は一個のカバンを托して、一等室内に安座した、之れを見送りし。中年増の仲居二人花月の夫れと見たは僻目か、彼れ等は極めて餘所々々しく加かも頗ぶる恭しく見送つたのである。●●●午前九時、釜山行列車は、東風に吹かれて緩く雲の彼方に去つて、更に。●●●同九時十分、新義州行列車も、防疫軍の勇士を乘せて、風寒き地に向つて進んだ、一人詫しく驛を出づれば、南山の松は亭々として、雪は凹める崖に殘つて、朝日は溶けるように、漢城の變を照らした。

實意の充滿した妾 ▽本宅へ暴れ込む

妾宅通ひが過ぎるので本妻の嫉妬から野猿流の夫婦喧嘩揚句が矢張り夫れに緣んだサルのオラぬのとの悶着の多いことは如何に稼業とは云へ閉口せざるを得ぬ一に拙者の不調法面目ない事で御座ると毎年十月の神樣集會の時八百万の株主に向つて眞實に面目ない顔付で出雲の大神が報告せらるゝと云ふに徹して明なる事實なるが茲に報道するは夫れと反對にて妾の方の嫉妬の火の手が強いので旦那は勿論本妻も弱り果てゝ居ると云ふ破天荒な珍現象の主は昨年一月廿日新町の淸進樓に勤め中なりしを百八十圓と云ふ大金にて落籍せられた源氏名をぽんちと呼ばれし塚井初子(二五)にして現在大和町一丁目浪花湯の隣りに鎭座まします者なるが此の女の旦那と云ふは永樂町二丁目の渡邊某さ云ふ九々とか八々とかが巧手と囃させらるゝ人なるが初子妾と云ふ身分を忘れて却つて旦那に惚れ込んで終つたと見へ一夜にても渡邊君のお見舞を受けぬと直ぐに翌日は本宅に乘り込み貴郎の樣に奥さんに甘い方はないものだ又奥さんも奥さんだ旦那を獨占するなんて……口惜しいーと噛付くと云ふ始末に渡邊君ツクヽ當惑した顔して色男には成りたく無いと悋氣に恐痴の衣をかけて溜息吐いて御座るとはイヤお察し申しやす

●家の内で物を拾ふ

西部西學峴居住當時南山町二丁目料理店松園亭雇人黄克洲(二十)は日本語に通じ居るか去る十日午後三時頃南山町井上宣文氏方へ注文品を届けたる際高崎喜美子所有の郵便貯金通帳金三十五圓八十錢預入の物を同宅内に遺失しあるを拾ひ二十一日該通帳を持ち本町四丁目郵便所に拂戻請求したるも印章なき爲め受領出來ず且つ預主は女なるを以て本人出頭す可き事を注意せられしより二十三日鐵路通り印判彫刻人金奎植に三十錢にて高崎の認印を彫刻せしめ同二十四日數て馴染たる北米倉町榮福樓酌婦出雲水さつよ(十九)は正月の年玉に双子反物及下駄等も與へし事あれば自分の頼みも聞き與るべしとさつよを電話にて松園に呼び寄せ自分の妻は日本人にて高崎喜美子と云ふ者なりしも都合ありて夫婦話合の上日本に歸らしたれば兩人にて働きたる金二百圓許り郵便貯金爲し居るも女の名義にて貯金しある故本人出頭せざれば拂下なきを以て郵便局に出頭して自分の妻高崎喜美子と稱し呉れと依頼したればさつよは何の氣もなく承諾したるより郵便局に同行改印屆及貯金拂戻請求書等の書類を作製提出したるも局員の質問に對し曖昧の點ありて疑ひを受けし爲め他日通知の際受領に出頭す可しと示されて其の通知を待ち居りたるに一方高崎喜美子より遺失に付再下付の願出ありしより事情判明本町派出所に訴へ出たるより直ちに逮捕されたるが彼は二十二日常に出入する南山町二丁目木谷たけ方に至り該通帳を示し自分の妻は日本人にて二人連れ働きたる金を郵便貯金に爲しあるに急に金の必要起りしも日曜にて拂下出來ざれば明日迄とて金十五圓を借出し居たりと

●正直な馬丁

一般軍屬僱馬丁連の多くは賭博を好み或は憲兵なりと自稱し官憲の迷惑を省みず料理屋通ひを爲す等にて六ケ月と續く者なきが茲に珍らしくも正直なる馬丁こそあれ京城第一憲兵分隊僱馬丁渡邊仁三郎(四三)は四十一年十月京城憲兵分隊に採用せられし以來正直に勤め今日にては馬丁監督を命ぜられ精勤中なるが昔より正直の頭に神宿るとか云ふ如く同人は昨年十二月二十八日本町七丁目古物商庭本商店にて八錢の煙管を購求の際十錢銀貨にて支拂たるに店主は二十錢銀貨と誤認し十二錢の釣錢を出したるに渡邊は十錢銀貨なりしとて十錢を返還したるより主人は大に喜び其の正直に感心して例の福引券を一枚特別に呈へしに該福引券が一圓の商品券に當り由にて大に喜び居れりと

●京城の鼠買上數

二十六日より二十七日午前十時迄の各警察の捕鼠數を聞くに南部署四十七北部四十五西大門分署六十三銅峴分署四十八東大門分署三十六水門洞分署十八頭なりと

●賊は元雇人

昨年八月六日ソンタクホテル止宿人米國人チポール氏の所持金百七十圓を何者にか窃取せられたる旨西部署へ屆出で因り臨檢したる當時の刑事現司法主任柳橋氏は被害者が外國人なれば特に苦心して犯人搜査に着手したるも何等手掛りなく單に嫌疑者と目す當時ホテル雇人なる金德銃(二十一)に注意中なりしが金德銃は自分に嫌疑ある事を覺り發覺を恐れ遂に夜中逃走行衞を晦したるより其所在搜査に苦心中咸興甲山銅山に潜伏中なるを探知し所轄警察に取押方打電せしより直ちに取押へ護送し來りしより取調の上二十七日檢事局に送らる

●又しても橫領

明治町一丁目牧野雜貨商店々員鹿兒島縣人福岡伊勢吉(三〇)は昨年十一月頃より長谷川町二丁目料理店新玉樓酌婦本田節(十九)に現を拔す身分不相應の遊興を爲し居る事探知したる長野岸刑事は擧動に注意中の處一月に入り前後六回に五十餘圓の浪費を爲し現に二十六日夜も大盤振舞に散財爲し居るより金の出所を取調たるに店の賣品敷島大和朝日等三十五箱及蜜柑一箱を窃み出し之を賣却して費消したる事判明檢事局に送らる

●相手は泥棒

羽衣町四十八番戸栗根繁太郎方同居岡山縣人西崎廣太郎(二五)は昨年十一月より栗根と裁縫業を共同營し居るが栗根の不在中ミシン機械外數點を窃取し入質して酒色に費消し居たるが南部署に檢擧され檢事局に送らる

包圍攻撃されたる有權者

●橫領店員

長崎縣人鶴田德藏(二五)は太平町一丁目雜貨商某方に店員として昨年九月より雇はれ中主人の名義にて本町五丁目三一館より金一圓を借出したるを初めとして外五ケ所に於て主人名義にて金品を詐取若しくは橫領したるより南部署に檢擧され檢事局送り

●日蓮宗の發展計劃

目下東京に於て開會中なる日蓮宗々會にては豫て計畫中なりし財團法人五十萬圓及宗費六割增、朝鮮開敎等の議案に就き二十五日決議せりと

●報恩講說敎

若草町一丁目曹洞宗兩大本山別院にては二十八日午後七時より承陽大師常濟大師兩祖忌に付き田中主任の說敎並に和讃あり

●大相撲新番附

大阪大相撲協會所の新番附は豫期の如く二十五日拂曉を以て發表すべき筈なり例に依つて幕内新番を對照すれば左の如し

	東の方(新)	東の方(舊)	西の方(新)	西の方(舊)
張出	岩友	岩友	大虎	[illegible]
大關	大木戸	大木戸	大錦	大錦
[illegible]	八陣	八陣	千舟川	千舟川
[illegible]	陣幕	陣幕	男鈴山	大虎
關脇	[illegible]	鳴戸岩	龍ケ谷	男鈴出
小結	加古川	扇海	早潮川	朝日松
前頭	[illegible]		二瀬川	時の錦
同	鬼面山	大林		
同	有知山	澤の鶴	平石	大砲
同	澤の鶴	玉の森	朝日松	早潮川
同	六ケ峯	六ケ峯	時の引	又泉
同	大林	松の音	二ケ泉	有知山
同	扇海	勝時	又砲	龍ケ谷
同	王森	小緑	大矢	二瀬川
同	小嵐	加古川	響川	平石
同	松の音	虎ケ嶽	小泉山	二ツ引
同	大門	加州山	男山	鶴ケ嶽
同	小緑		緋縅	朝嵐

●京城座

每夜大入好評にて札止の盛況を博せし兄弟義團は廿八日の藝題は藝者十時間一年の夢通しにて大車輪に演ずる由なり

仁川防疫彙報 廿六日

▲捕鼠懸賞 仁川警察署にてはペスト豫防の爲め熱心に捕鼠奬勵し居るが更に懸賞を以て奬勵する事とし一等五十圓以下二等三等とし頭數を限り抽籤する由詳細は明日の紙上にて報道すべし

▲鼠買上數 百七十七頭五圓三十一錢

▲郵便消毒 仁川郵便局にては各地よりの到着郵便物に對し消毒の爲め今回新に一間半位の小屋を建設し一々消毒の上配達せしむる由

▲船內抑留 仁川税關にてはペスト豫防上大連及其他北淸地方を經て入港する船舶の乘客は一切上陸を禁止し一定の抑留中は船內に抑留隔離さるゝとなるが去る廿一日入港の萬武源丸の乘客にて十二歳と四歳の子供を連れたる婦人があり最初は本船に抑留し置きしが更に小汽船に移したる以來親子三人共上陸する事も出來ず小供は退屈して泣き暮し餘病が發しはせぬかと船員共慰め居る由

▲平民文團▼

▲テル女に申す、仁川の料理店れかめにも雇ひ入れたしとの事(保)▲れかめは皆れ客として取扱ふが物體な爲方なり特に電話にて用談の際を然りとす今日の電話の如く「私所に頼たいんですから來て貰へるか貰へねか聞いて貰いたいんです手數でも至急に願ひますよ」と恰で口入屋へでも話すが如き口調でよ感情を害すよ注意し玉へ(風聞子)▲薩摩琵琶希望のれ方に讓り渡したし(村雨)▲投書家に申す斯る種の事には本名住所を記せられたればとて名譽を損する事もなく且つ手數を省くの利益ありと承知せられよ(小僧)▲賀店讓受度生に申す御注文通りの讓店あり相變らず御希望なれば光化門憲兵第二分隊構北入(西部司宰洞)大槻商店に問合はさるれば委細分明すべし(保)▲私は當地に來て一人の知巳もなく非常に困つて居ますが商店か會社に心安く使つて下さる家は有りませんか經驗はたしかに有ります(佐賀縣生)▲貴紙此頃の配達は十二時か朝九時頃に配達するが處に依りては夕方八時頃の處もある(奈何理由)▲南大門外鐵路擴張を妨げし主魁の我利々々亡者西部より推されて議員たらんとす斯んなザマでは京城の發展も覺束なし嗚呼(慷慨生)▲彼處此處の低い煙突や小さい煙突から盛んに油煙が出るのでカラやカウスまで眞黒けのけにする計りでなく此の色男を薩張り代無しにするとは餘りだドーカ其邊もれ察し一日も早く改造して貰ひたいねー(の茶平)▲ツーくー(火事嫌ひ)▲新町鶴島樓の初音さん御病氣如何餘り店計り引いて居るとスーチャンを橫取りにせられますよ仲居連の內さる者有りと聞く御注意肝要(同業女)▲鬪樓の九重さんとやらへ七重八重九重いいいいいまで咲きぬれど實の一つだに無きぞ悲しさ(銅鑼)▲總督府醫院看護婦の不始末に就いての投書は精探の要あり而して採否は一に三面子の權限內に屬することを承知あれ「其の八へ」(保)

京城居留民會議員候補者（イロハ順）
林田金次郎君
和田常市君
中村再造君
山口太兵衛君
松永達次郎君
増田三穂君
小林藤右工門君
秋吉富太郎君
城六太君
森勝次君
右推薦候也
中部同志會

京城居留民團民會議員
西部候補者（イロハ順）
池田長次郎君
大村保太郎君
海津三雄君
高橋章之助君
曾我勉君
中島司馬之助君
松浦源治君
深水清君
榊原長緒君
三好和三郎君
右推薦候也
明治四十四年一月　日
西部有權者選擧事務所

京城居留民團民會議員
東部繁榮會候補者（イロハ順）
石井新君
大橋清三郎君
梶原末太郎君
田村義次郎君
釘本藤次郎君
淵上貞助君
古城梅溪君
近藤佐五郎君
木島平兵衛君
關繁太郎君
右推薦候也
明治四十四年一月　日
東部繁榮會

京城居留民團民會議員候補者（イロハ順）
原勝一君
徳久米藏君
大村百藏君
渡邊五郎君
兼古禮藏君
竹内菊太郎君
村井甚七君
待井三郎君
天日常次郎君
右推薦候也
明治四十四年一月　日
龍山有權者有志者
京龍聯合有權者有志者